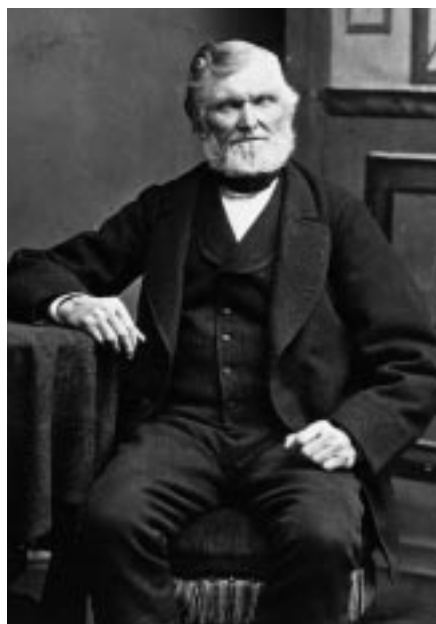


和解の時代

年表	
年代	重要な出来事
1888.5	マンタイ神殿奉献
1889.4.7	ウィルフォード・ウッドラフ、大管長として支持される
1890.9.24	ウィルフォード・ウッドラフ大管長、「宣言」を発表する
1893.4.6	ソルトレーク神殿奉献
1894	ユタ系図協会設立
1896.1.4	ユタが州に昇格する
1897.7.24	聖徒のソルトレーク盆地到着50周年を祝う
1898.9.2	ウィルフォード・ウッドラフ死去



ウィルフォード・ウッドラフ（1807 - 1898年）

ジョン・テラー大管長は1887年に他界した。それまでの10年間は激動と迫害の連続だった。これからの10年間は和解の時代である。ウィルフォード・ウッドラフが教会の大管長に就任し、多妻結婚反対運動は終焉を告げ、ユタが州に昇格し、ソルトレーク神殿がついに完成して奉献された。こうして、末日聖徒は大きな希望を胸に抱いて新しい世紀を迎えることになる。

ウィルフォード・ウッドラフが導く教会

「地下潜伏」の期間中、十二使徒定員会会長のウィルフォード・ウッドラフは、セントジョージとその周辺地域で流浪の生活を続けていた。探索する合衆国執行官の手から彼を守ったのは地域の友人たちである。ウッドラフ長老は、テラー大管長の病気が回復する見込みのない状態にまで悪化したことをジョージ・Q・キャノン副管長から知らされたとき、直ちにソルトレーク・シティーに向かって出発した。道中でテラー大管長の死去を知らされたウィルフォード・ウッドラフは日記に次のように記している。

「末日聖徒イエス・キリスト教会大管長がまた、もう一人次の世に召された。ジョン・テラー大管長は2度殉教している。預言者ジョセフとハイラム・スミスがカーセージの監獄で殺害されたとき、テラー長老は4発の弾丸を浴びて、自らの血を殉教者ジョセフの血に重ねた。それは1844年のことであった。そして今、1887年... テラー大管長は自らが信じる宗教のゆえに、合衆国官吏に追われて束縛と苦難に満ちた逃避生活を強いられたまま、命を落とした。.....

ジョン・テラー大管長が本日8時5分前に死去したことによって、末日聖徒イエス・キリスト教会の責任と教会に対する配慮、これらすべてがわたしの両肩に負わされた。教会の大管長として、あるいは大管長会不在の際の教会の管理役員である十二使徒会会長として、わたしはこれまでの人生で一度たりとも望んだことのない非常に特別な立場に立たされている。しかし、神の御心によって、この責任がわたしの頭上に置かれた。」¹

このときすでに80歳の高齢に達していたウィルフォード・ウッドラフは、1833年故郷のコネチカットにおいて教会に加入した。1834年にシオンの陣営でジョセフ・スミスに合流し、その後5年間伝道活動に専念し、多くの実りを得た。ウッドラフ長老は1839年に十二使徒定員会会員に聖任されると、同僚の使徒とともに英国へ渡り、驚くべき成功を収めた。60年以上にわたってこつこつと書きつづった彼の日記は、教会歴史を理解するうえでの貴重な資料となっている。ウッドラフ長老は生者と死者の救いのために、生涯を通じて力のかぎり働き続けた。

時満ちる時代の教会歴史

ウッドラフ会長はジョン・テラーの葬儀が行われている間ソルトレーク・シティーにいたが、逮捕される恐れがあったため葬儀には出席しなかった。葬儀が終了すると、ウッドラフ会長は直ちに十二使徒と会い、教会の指導に着手したが、引き続き公の場に姿を見せることはしなかった。やがて、1887年10月9日、ウッドラフ会長はロレンゾ・スノーとフランクリン・D・リチャーズを伴ってタバナクルに入り、総大会の午後の部会に出席した。自分たちの指導者を認めた聖徒は拍手をもって迎えた。ウッドラフ会長は説教を終えると、逮捕を避けるために閉会の賛美歌の前に退場した。

政府による撲滅運動は決して終わったわけではなかった。その後の数か月間、ウッドラフ会長はしばしば他の十二使徒、特にテラー大管長と非常に近い間柄にあったジョージ・Q・キャノンらと相談したうえで、自宅でひっそりと教会の業務を処理した。ウッドラフ会長にとってはつらい日々であった。教会の資産は政府に没収されていた。その一方で、教会をだしにして私腹を肥やしていた人々がいた。

1888年の大きな出来事はマンタイ神殿の奉獻である。マンタイ神殿は1877年、ブリガム・ヤング大管長により敷地の奉獻と、^{くわ}鋤入れ式が行われた。政府の撲滅運動により多少の遅れを来してはいたが、1888年の春には完成にこぎつけ、クリーム色の石灰石を外壁に持つ美しい神殿が姿を現した。ウッドラフ会長は次のように述べている。「最も美しい神殿であり、すばらしく仕上がっています。教会が組織されて以来、末日聖徒が建設したいかなる建物よりもぜいたくな建物です。」²

1888年5月17日、教会の指導者は非公開の奉獻式を行うために新しい神殿に集まり、ウィルフォード・ウッドラフが奉獻の祈りをささげた。後に彼は日記に次のように記している。「わたしは地上に生き長らえて、ロッキー山間において至高なる神にもう一つの神殿を奉獻する特権に浴したことを神に感謝する。わたしは永遠の父なる神に祈る。わたしたちが神の聖なる御名に……完成したマンタイ神殿とその他すべての神殿をお守りくださるよう、そしてこれらの神殿が異邦人や敵の手に渡されて汚されることが決していないように祈る。」³ 5月21日から23日まで行われた公開奉獻式はロレンゾ・スノー長老が執行し、ウッドラフ会長が先にささげた祈りを朗読した。ダニエル・H・ウエルズがマンタイ神殿の初代神殿長に任命された。

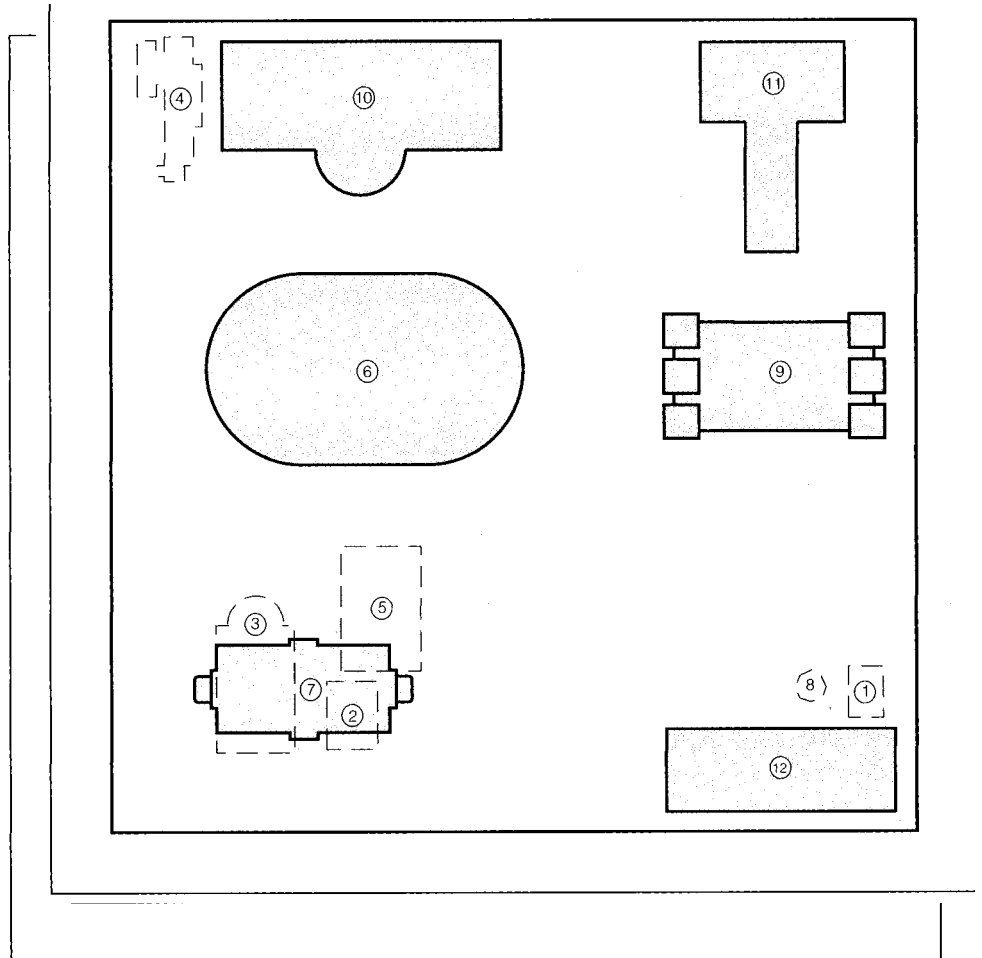
ジョン・テラーの死後2年を経て、大管長会が再び組織された。1889年4月の総大会において聖会が開催され、ウッドラフ会長が教会の第4代大管長として支持された。テラー大管長の副管長であったジョージ・Q・キャノンとジョセフ・F・スミスが再び副管長として支持を受けた。

エドマンズ - タッカー法と国政

1887年から1890年にかけての末日聖徒と合衆国政府および国民の関係は相変わらず悪化していた。ウッドラフ大管長はこの件について1889年の大晦日^{おおみそか}の日付で次のように記している。「1889年も間もなく暮れようとしている。国民が総力を挙げてシオンに敵対し、聖徒に対して戦いを挑むであろうと語った預言者ジョセフ・スミスの言葉が成就しつつある。今日ほど、国中が聖徒に対する虚言で満ちた時代はかつてなかった。」⁴

テンブルスクウェアの建物

1. 旧簡易集会所。この簡易集会所は1847年の夏、12.2メートル×8.5メートルの敷地に建設された。垂直の柱を立て、先端部分に柱を水平に渡し、それを縛りつけた。垂直の柱に対して大枝を十文字にくくりつけて日よけにしている。
2. 簡易集会所。これは1848年に作られた規模の大きい簡易集会所である。木製の座席と集会所の一方の端に壇がしつらえてあった。
3. 旧タバナクル。1851年から建築が始まったこの建物は30.2メートル×18.9メートルの広さを持つ。日干しれんが造りの建物で、南北に長方形をしており、2,500席を有していた。アッセンブリーホールを建築するため1870年に取り壊された。
4. エンダウメントハウス。1855年5月にヒーバー・C・キンボールにより奉獻された。1889年に取り壊されている。
5. 大簡易集会所。エンダウメントハウスの建築中に建設された。この大簡易集会所は総大会に使用され、後にタバナクル建設時には作業場として使用された。
6. タバナクル。1863年に建築を開始した。1875年10月にジョン・テラー会長により奉獻された。
7. アッセンブリーホール。1877年に建築を開始し、1880年に完成した。1882年にジョセフ・F・スミスにより奉獻された。
8. 最初の案内所。八角形の小規模な建物で直径約6メートル。1902年8月4日にオープンした。
9. ソルトレーク神殿。1853年ブリガム・ヤングによって工事が開始され、1893年4月6日、ウィルフォード・ウッドラフ大管長により奉獻された。
10. 訪問者センター北館。1963年3月7日デビッド・O・マッケイ大管長により奉獻された。
11. 神殿別館。1966年3月21日に完成した。
12. 訪問者センター南館。1978年6月1日スペンサー・W・キンボール大管長により奉獻された。



1887年に制定されたエドマンズ・タッカー法には、政治的および経済的団体としての教会を抹殺することを意図した規定が含まれていた。この法律によって末日聖徒イエス・キリスト教会の宗教法人格は剥奪され、5万ドルを超えるすべての資産は政府に没収されることになった。政府官吏は直ちに教会資産の押収に入った。例を挙げると、テンブルスクウェア内の各種建造物ならびに教会の事務所は政府の管理下に置かれ、教会は政府から借用するという形が取られた。政府はヨーロッパ人改宗者の流入を阻止するために、移民代理業務を行う主要な組織であった永続的移住基金を解体させた。公民権を奪われた聖徒は日増しに増えていった。教育施設は準州最高裁判所が任命した連邦職員の管理下に置かれた。合衆国執行官は以前より多くの聖徒を逮捕すると間髪を入れずに実刑判決を下し、刑務所に送った。ジョージ・Q・キャンノン副管長も刑務所に送られた一人だった。

逮捕や投獄によって家族が大きな打撃を受けたのは事実だが、教会にとって最大の問題は、神殿の建設、伝道活動の推進、印刷物の発行、聖徒の福祉のために必要な資金を獲得し、保持する手段が封じ込められたことであった。教会指導者は、エドマンズ・タッカー法による教会財産の没収が憲法に違反していると主張して、合衆国最高裁判所に上告し、審理を受けるまでにこぎつけた。しかし、1890年5月に合衆国最高裁判所は、エドマンズ・タッカー法に基づく政府の行為をすべて合憲とする決定を過半数で採択した。この決定に聖徒は期待を裏切られたが、さりとて切迫した

時満ちる時代の教会歴史

教会の経済的崩壊を食い止める別の手段も見当たらない状態だった。

公民権の剥奪は次第に教会を窮地に追い込んでいった。エドマンズ・タッカー法には、多妻結婚で有罪が確定した者、多妻結婚禁止法を守ることと同意しない者から市民権を剥奪する規定が設けられていた。1890年までに約1万2,000人のユタ市民がこの規定の適用を受けて公民権を奪われている。南東部に聖徒の定住地が幾つかあったアイダホの州議会では、有権者に対して、多妻結婚を信奉する教会に属していないことを宣誓させ、宣誓を拒んだ教会員全員から市民権を剥奪する法律を実施した。1890年2月、合衆国最高裁判所はアイダホにおけるこの宣誓による選別方式を合憲と判断している。この決定に勢いを得たユタの聖徒敵対者は、ワシントンD.C.に代表団を派遣し、同様の宣誓をユタの市民に実施するため、議員に対して賛成するよう圧力をかけ始めた。こうして、カラム・ストラブル法案が起草された。1890年の春までには議会通过しそうな勢いだった。この法律が制定されれば、国内のあらゆる教会員が市民としての基本的人権を剥奪されることになる。

この苦境の間も、教会には首都ワシントンD.C.で教会を擁護するための活動を展開した人々がいた。ユタ選出の合衆国議会代議士ジョン・T・ケイン、元副管長で鉄道事業家のジョン・W・ヤング、教会の主席顧問弁護士でフランクリン・D・リチャーズ長老の息子フランクリン・S・リチャーズ、非教会員のジョージ・ティクナー・カーチスなどである。時には、大管長会のジョージ・Q・キャノン、ジョセフ・F・スミスその他教会の幹部もワシントンD.C.の政治家に働きかけることもあった。彼らは特にユタの州昇格問題に力を入れていた。グローバー・クリーブランド大統領と民主党議員は本案件に対して合意する意向だったが、1888年の総選挙において共和党に政権を奪われてしまったため、ユタの州昇格は実現するに至らなかった。

ユタでは、多くの教会員が選挙権を剥奪されたため、自由党が台頭してきた。自由党の政治運動は、連邦政府官吏の動きと同様に過激だった。自由党は投票に不正な細工を加えて、1889年にオグデン市を支配する権力を得た。次の標的にしたのは、1890年2月に選挙が予定されているソルトレーク・シティーだった。合衆国判事は、移民して来た末日聖徒には合衆国市民権を認めない、すなわち投票権を与えないという決定を下していたため、非教会員に有利な展開が予想された。また多くの異邦人（非教会員）戸籍本署長官は、教会員の有権者登録を不正に拒否していた。

教会指導者は、モルモンが合衆国に対して忠誠を尽くしていないという訴えが事実無根であることを政府官吏に納得させようとしたが失敗に終わっていた。ジョセフ・スミスの生誕記念日に当たる1889年12月23日の日曜日、教会員は呼びかけに応じて、この重大な局面に全能の神の助けを求めて断食した。1890年1月、教会の政治組織である人民党は、党の候補者への支持を取り付けるべく活発な選挙運動を展開した。しかしながら、2月に行われた選挙でソルトレーク・シティーの支配権を握ったのはモルモンではなかった。

選挙での敗北と合衆国最高裁判所の裁定により一層の窮地に立たされた教会指導者は、1890年の春から、ワシントンD.C.において本格的に有力者を探し始めた。過去40年間にわたって、民主党は共和党よりも教会に対して好意的であった。しかし、現在は共和党が実権を握っているため、教会としては政府の方針を転換させ、ユタ

和解の時代



ユタ州歴史協会の厚意により掲載

アイザック・トランボ（1858 - 1912年）はネバダで生まれたが、ソルトレーク・シティーで成長した。母親は教会員だったが、アイザックは終生、改宗しなかった。

アイザックはカリフォルニアに移り、そこで実業家として成功した。カリフォルニア沿岸警備隊大佐でもあった。10年以上にわたりユタの州昇格に尽力した。ユタの人々の夢がかなえられたのは、アイザックの政界への働きかけによるところが大きい。

における悲惨な状態を解消するために、どうしても共和党内に教会の擁護者を見つけなければならなかった。カリフォルニアの著名な事業家でありロビイストであったアイザック・トランボは、長年にわたって教会に対して好意的であった。大管長会はこのアイザック・トランボを通じて、カリフォルニア州選出の上院議員レランド・スタンフォード、1888年共和党全国大会議長であったモリス・M・エスティ、共和党全国委員会委員長のジェームズ・S・クラークソンをはじめとする数名の共和党議員との間で密接な関係を築くことに成功した。この4人の有力者は1890年に展開された、聖徒たちのロビー活動を支援している。⁵

ジョージ・Q・キャノン副管長は1890年の春と夏に2度ワシントンD.C.へ赴いている。そこで共和党の有力議員数名から聖徒への協力を取り付けた。数年前キャノン長老がユタ準州選出の合衆国議会代議員であったときに味方してくれた有力者、ジェームズ・G・ブレイン国務長官もその一人である。キャノン副管長は6月にユタへ戻ると、長い間、闇の中に閉じこめられていたユタに光がさしてきたと報告している。

「宣言」

1890年7月にソルトレーク・シティーの学校区役員選挙が実施されたが、おびただしい数の末日聖徒が投票を拒否されたため、モルモン反対政党が勝利を収めた。こうして、反対政党が準州首都における学校教育の実権を握ることになった。さらに7月下旬に最高裁判所は、多妻結婚の家庭に生まれた子供は父親の財産を相続することができないとする裁定を下した。8月の第1週にモルモン反対政党は、ソルトレーク郡とウィーバー郡におけるほとんどの公職選挙で勝利を収めてしまった。そしてついに、ユタを担当する合衆国検事は教会の資産、特にセントジョージ、ローガン、マンタイ、ソルトレーク・シティーの神殿が合衆国議会で規定した没収財産に含まれるかどうかの調査を開始したとの情報が、教会指導者のもとに寄せられた。ウッドラフ大管長が合衆国政府からの確認を入手したのは8月末のことであった。それによると、1888年に交わした合意によって政府は神殿には手を着けないという約束だったにもかかわらず、この約束を無視して没収する方向に傾いていた。

さらに、大管長会の3名が多妻結婚に関して法廷で証言を求める召喚状を受けることになっているという情報を入手したウッドラフ大管長は、法廷対決を避ける方法を探すためにカリフォルニアへ赴いた。カリフォルニアの政治指導者と会見した結果、できる限りの影響力を行使してくれるという約束を取り付けた。しかし、彼らの支援をもってしても、聖徒の間で実施されている多妻結婚を根絶しようとする力には抗し切れない状況であることは明らかだった。

ウッドラフ大管長はソルトレーク・シティーに戻ると、その1週間、長時間にわたって苦悩し、祈り、副管長たちと話し合った結果、「当面教会を救うため」⁶の行動をとる準備ができたという日記に記している。

もし多妻結婚をやめなかったとしたら、どのようになっていたかを主は啓示によってはっきりと示されたとウッドラフ大管長は後に語っている。「すべての神殿の没収と損失、生者と死者のためのそこでのすべての儀式の中止、大管長会と十二使徒

時満ちる時代の教会歴史

会と教会内の家族の長たちの投獄，ならびに人々の個人財産の没収という代価を求められながら，多妻結婚を行う努力を続けることか。（これらすべてによって，その行為はおのずと中止されるでしょう。）それとも，この原則を固く守ることによってこれまで行ってきたことを行い，苦しんだ後に，その行為をやめて法律に従い，そうすることによって，預言者たちと使徒たちと父親たちを家に残して，彼らが人々を教え，教会の務めを果たせるようにし，また神殿も聖徒たちの手に残して，彼らが生者と死者のために福音の儀式に携われるようにすることか。」（公式の宣言一，「宣言」に関するウィルフォード・ウッドラフ大管長の三つの説教からの抜粋）

1890年9月24日の朝，大管長は執務室に入ると，ジョン・R・ワインダー監督とジョージ・Q・キャノン副管長に，前の晩あまり眠れなかったことを打ち明けた。大管長は「教会が現在置かれている状況で何をなすべきかについて一晩中，主とともに苦悩した。そして数枚の紙を机の上に置くと、『これがその結果です』と言った。後にわずかな変更が加えられたが，そこに書かれていたのが『宣言』として知られているそのものであった。」⁷そして大管長は自らが記した書類を集まった幹部に見せた。幹部の兄弟たちがそれを承認し，公表する準備をした後，ウッドラフ大管長は，主が大管長に何をなすべきかを明らかにされ，またそれが義にかなうものであることを示されたと言明した。当時「宣言」と呼ばれていたこの「公式の宣言」において，ウッドラフ大管長は，教会はもはや多妻結婚を教えることをせず，多妻結婚の実施をいかなる人にも許すことはないと言明した。また，大管長自身が多妻結婚を禁じる国の法律を守ること，さらに教会員も同様に行うよう大管長としての影響力を行使することを表明した。結びに当たって次のように記している。「そしてわたしは今，国の法律によって禁じられたいかなる結婚も，それを行うのを差し控えるようにというのが，末日聖徒に対するわたしの勧告である，と公に宣言するものである。」（公式の宣言一）

「宣言」は翌日の全国の新聞に掲載された。ユタ準州代議士であるジョン・T・ケインより原稿を受け取った『ワシントンポスト』（Washington Post）までもが，「宣言」を掲載した。

10月の第1週，ケイン代議士は大管長会に電報を送り，政府は教会の総大会で正式に承認を受けないかぎり公式な宣言とは認めないことを内務省長官から告げられたと知らせてきた。

1890年10月4日土曜日の朝から総大会が開催された。この総大会は3日に及んだ。大会3日目，ジョージ・Q・キャノン副管長は「宣言」について述べた後，ソルトレーク・シティ第18ワードのオーソン・F・ホイットニー監督に宣言文を読み上げるように要請した。次いでロレンゾ・スノー会長は，聖徒はウィルフォード・ウッドラフを末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として，また結び固めの鍵を有する者として支持するのであれば，その理由に基づいて，大管長によって記された「宣言」を支持するよう，聖徒に提議した。提議は全会一致で承認された。

キャノン副管長は続いて，多妻結婚の教義について教会はどのように考えてきたかをかなり長い時間をかけて聖徒に説明した。教会は多妻結婚を，民に対して拘束力を有する神からの啓示として受け入れた。教会は多妻結婚の実施を禁じる1862年

和解の時代

合衆国法が憲法違反であり、信教の自由を保証する合衆国憲法修正第1条に違反していることを国家に対して証明する努力を続けた。さらに、教会のこの主張は、国内の最も優れた法律学者の間で支持されていた。また聖徒たちは、教会の1,300人以上の男性が戒めに従順であったがゆえに投獄されるという迫害に耐え抜いた。政府の指導者、また何人かの教会員から受けたあらゆる圧力に屈することなく、聖徒は多妻結婚の実施をやめるようにとの啓示を受けるまで、神の律法に従った。

キャノン副管長は最後に、「宣言」が神から与えられたものであること、中央幹部によって支持されたものであることを証した。もし、「宣言」のゆえに試しを受けることがあるならば、指導者がしたように、すなわち祈りによって天父のもとへ行き自分で証を得るようにと勧告した。⁸

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、自分に与えられた啓示について次のように証して、大会を閉じた。「すべてのイスラエルに対して申し上げます。わたしは、もし主の前に行き一心に祈りをささげていなかったら、この『宣言』を書くことができませんでした。わたしは同年代の人たちと同じように霊界へ行こうとしています。わたしは霊の父である天父の御顔を仰ぎ、ジョセフ・スミス、ブリガム・ヤング、ジョン・テーラーそして使徒たちと顔を合わせたいと思っています。わたしは神の目と諸天の前で喜ばれないようなことをするのであれば、むしろここから外へ出て行って銃で撃たれた方がよいと考えています。わたしはほかの人よりも別段優れた人生を送ったわけではありません。わたしはわたしが取った方法によって、人々にどのように思われるかを知らないわけではありませんでした。しかし、わたしは自分の義務を果たしました。わたしたちも国民であるこの国家は、この原則に関連して行ったことについて責任を負わなければなりません。」⁹ ウッドラフ大管長は話を終えるに当たって、次のように約束している。「わたしはイスラエルに申し上げます。主はわたしであろうと、ほかのだれであろうと、この教会の大管長として立つ者が皆さんを誤った道へ導くのをお許しになることは決してありません。そうすることは、計画の中にはありません。それは神の御心の中にありません。もしわたしがそうしようとしたならば、主はわたしをこの職から退けられることでしょう。また、ほかのだれであろうと人の子らを神託や彼らの職務から誤った道に導こうとする者に、主はそうようにされるでしょう。」¹⁰

州昇格に向けての努力

「宣言」の公布は、末日聖徒と合衆国政府の間で和解を成立させるための重要な第一歩だった。新たな理解の時代が始まった。これまで多妻結婚に対して激しい反対行動をとっていた合衆国最高裁判所長官チャールズ・ゼインは法廷に引き出される末日聖徒に対して寛大な態度を示すようになった。こうして、複数の妻を持つ男性を逮捕するための捜索は終わりを告げた。また、多妻結婚をしていた夫が引き続き妻や子供の面倒を見ることについては、これ以上とがめだてをする必要はないとする考え方が世の中を支配するようになった。合衆国大統領ベンジャミン・ハリソンは相次ぐ嘆願書に動かされて、1890年以降多妻結婚を解消したすべてのモルモンの男性を条件付きで免罪とした。そして1894年9月にグローバー・クリーブランド大

時満ちる時代の教会歴史

統領は条件をさらに緩やかにして特赦を与えた。1893年、議会は没収した財産を教会に返還する法案を通過させた。こうしてユタを州に昇格させる運動を再開する舞台が整ったのである。しかし議会の承認を得るには、教会が政治への関与をやめる必要があった。また教会の政党である人民党を解散し、ユタの市民は国家政党を支持しなければならなかった。大管長会はこれらすべての議会決議を支持する意向を公式に表明した。かくして1891年6月、人民党は正式に解散し、さらにモルモン反対政党である自由党も多少の衝突はあったが、2年後に解散した。

しかし、ユタに民主党、共和党の二大政党を確立することは非常に困難であった。共和党は1861年以来、ほとんどの時期の政界を支配し、その間多妻結婚禁止法の制定を推進し、また制定後は強力に実施してきたという経緯があったため、聖徒たちの支持は民主党に傾いていた。さらに、1885年から1889年にかけて民主党が任命した官吏は聖徒に対して非常に寛大だったということもあった。教会員の政治に対する一般的な傾向とユタのほとんどの非教会員が共和党支持であったという事実から、民主党支持者が教会において事実上の政党と化してしまうことを、大管長会は何とか避けたいと考えていた。

ステーキ会長と監督が集められて、共和党に投票する末日聖徒の人数を増やすようにとの指示が与えられた。これはユタに二大政党が実質的に存在し得ることを国家政党の指導者に示すことがねらいだった。しかし、このような奨励に当たっても、聖徒は良識を用い、細心の注意を払わなければならないことが地元の指導者に指示された。すでに民主党を強く支持している教会員には支持政党の変更を要請する必要はなく、民主党に対する思い入れがさほどでない人には支持政党を変更するよう奨励した。この方法によって賛同者を得た共和党は、1892年までにユタの政界において有力な政党となっていた。

ユタの州昇格のための微妙な交渉が議会の上下両院で引き続き行われていた。ほとんどの議員が重要視していたのは、教会が多妻結婚の中止に真剣に取り組んでいること、また教会が政治に関与しないことの確証が得られるかどうかであった。非教会員であったアイザック・トランボとハイラム・B・クロウソン監督が中心となっていた巧妙なロビー活動により、ついに1894年7月、ユタ州昇格条例が可決された。そして1894年7月から1895年まで、ユタ住民は教会員と非教会員が協力して州憲法を起草し、議会の承認を得た。この州憲法では特に多妻結婚の禁止と、政教分離がうたわれている。

こうして1896年1月6日、ユタは州に昇格し、初代州知事としてダニエル・H・ウエルズの息子ヒーバー・M・ウエルズが就任した。

「和解」の時代全体を通じてやっかいだったのは、政治に関連した問題である。教会員の間で政治にからんだ様々な意見の不一致や誤解が生じていた。中央幹部の中にさえ、ある人は民主党の候補者や政策に賛同し、また別の人は共和党を支持するといった状態が見られた。1895年に、十二使徒定員会のモーゼス・サッチャー長老がユタの民主党上院議員候補に指名されてこれを受け、一方七十人第一評議会のB・H・ロバーツ長老も同じ党から立候補して選挙運動を展開するという事態が起きた。これは政治的な紛争にまで発展したため、何らかの対応が必要となった。二人

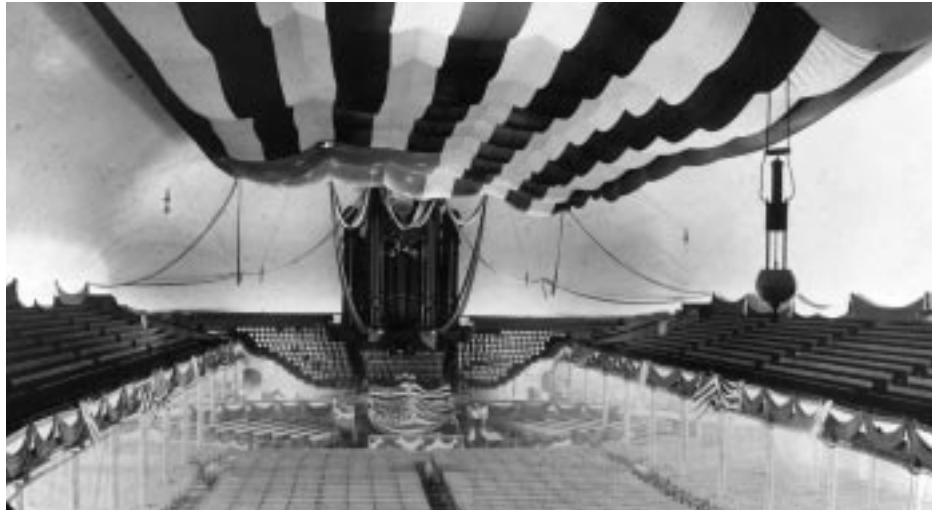


ヒーバー・M・ウエルズ（1859 - 1938年）は1895年に実施された総選挙により、36歳でユタ州の初代州知事に選ばれた。2期にわたって選出され、職務を全うしている。

和解の時代

グローバー・クリーブランド大統領は1896年1月4日土曜日、ユタが州として合衆国に加わることが承認されたことを宣言した。1月6日月曜日は祭日となった。ソルトレーク・タバナクルで開かれた祝典には、会場が満席になるほどの人々が詰めかけた。

タバナクルのドームが大旗で覆われている。タバナクルの正面には、中に電球が入った新しい星が飾られ、祝典の間中、点灯された。



は、教会指導者に相談せず指名を受けたため嚴重な注意を受けたが、結局二人とも落選した。

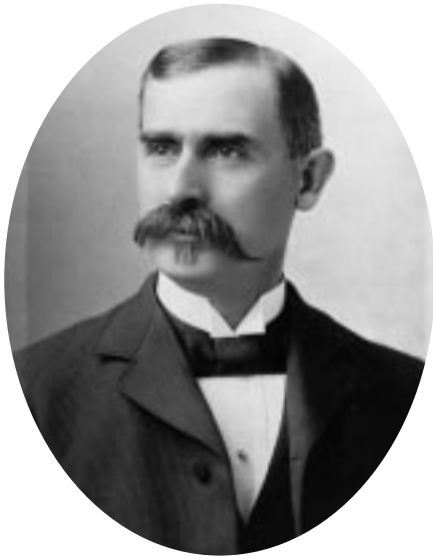
1896年4月、中央幹部は教会の政治規則あるいは政治宣言として知られる正式声明を発表した。これによって教会は、政教分離を明確にすること、また個人の政治上の権利を尊重して、いかなる人に対しても教会の意向を押しつけたりはしないことを強調した。さらに、ユタ州における平和と安寧を維持するために、要職に就いている教会指導者は「事前に同僚および管理者の承認を得ることなく、自らに課せられた宗教上の義務の遂行を妨げられたり、遂行不能に陥ることが予測される政治的役職もしくは職業に就くことは」¹¹望ましくないとされた。

B・H・ロバーツは当初、この文書によって自分の政治的権利が制限されると考え、署名を拒否した。しかし中央幹部の同僚と話し合い、同僚からの説得を受け、また自ら祈った後に、彼は署名した。一方モーゼス・サッチャーに対しても同様の努力が行われたが、声明文への署名を拒否した。このためモーゼス・サッチャーは十二使徒定員会から解任された。しかし、彼は教会員資格までもを放棄することはなかった。政治宣言はこれ以降今日まで、中央幹部の政治活動を規制する基準となっている。

この和解の時代に実施されたもう一つの重要な出来事は、教会の財政上の方針が幾つか変更されたことである。教会は国内の通常の事業形態に合わせるために、教会が所有していたほとんどの事業を個人または私企業に売却するか、あるいは売却しない場合も、収益を追求する私企業と同様の事業方針に添って運営することにした。1890年代全体を通して、教会は政府による財産の一時的没収と1893年の全国的な金融破綻^{はたん}によって、厳しい財政状態に立たされていた。

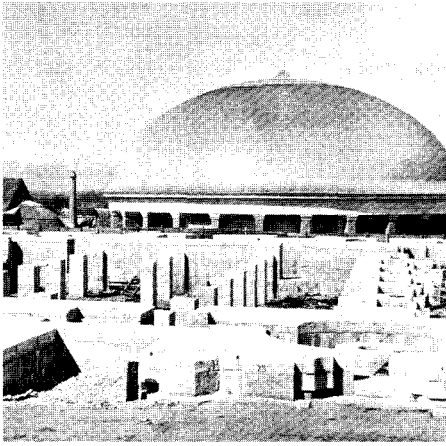
ソルトレーク神殿と死者のための儀式

ブリガム・ヤング大管長は1853年4月6日にソルトレーク神殿の礎石を置く儀式を厳粛に執り行った。これは彼が示現によりソルトレーク神殿を見てから¹²、約6年後のことである。ヤング大管長は自分が神殿の完成まで生きることはないと考えていた。ヤング大管長は神殿の建設には最良の資材と技術だけを使用すべきだと言って譲ら



モーゼス・サッチャー（1842 - 1909年）は14歳で長老に聖任され、カリフォルニアで宣教師として働く召しを受けた。10年後に再び宣教師に召され、ヨーロッパに赴いている。

1879年十二使徒定員会に召されて、1896年まで同職にあった。サッチャー長老は使徒に聖任された数か月後に、ジョン・テラー大管長からメキシコで伝道を開始する責任を与えられた。



ソルトレーク神殿の建築風景。1873年，
1882年，1892年



なかった。それから40年が過ぎた。その間の、数千人に上る末日聖徒の懸命な作業と献身が報われ、今やウィルフォード・ウッドラフ大管長は自身と教会を奉献式のために備える段階に入った。

ソルトレーク神殿の建設は幾度となく遅れを来していた。しかし1880年代後半から教会は総力を挙げて完成を目指した。1892年4月ウッドラフ大管長は総大会に合わせて「笠石を置く儀式」を実施するよう指示した。5万人を超す観衆（当時、最大の集会であった）がテンプルスクウェアと周辺の道路を埋める中、行進曲の演奏とタバナクル合唱団による特別の神殿聖歌が披露された。ジョセフ・F・スミス副管長が祈りをささげた後、合唱団が「われらに平和を与えたまえ」を歌った。時刻が正午に近づいたころ、ウッドラフ大管長は壇上に立ち、電気のボタンを押した。すると笠石が下がってきて、所定の位置に納まった。観衆は一斉に「ホサナ、ホサナ、神と子羊にホサナ、アーメン、アーメン、アーメン」と叫んだ。白いハンカチを振りながら、これを3度繰り返した。そして全員で「主のみたまは火のごと燃え」を歌った。

聖徒たちは翌月特別の断食を行い、断食によって蓄えた資金を大管長会に差し出した。礎石が置かれてから40周年に当たる1893年4月6日までに神殿を完成させるためであった。教会指導者は会員たちに対して、神殿の奉献式に参加する準備として、思いと生活を厳しく律し、政治に対する極端な思い入れを慎み、あらゆることについて清くなるよう強く求めた。

特異な建築様式を持つ神殿が次第にその全貌を現し始めると、ユタだけでなく全国の人々の好奇心を集めることになった。奉献に先立って行われた一般公開には、1,000人を超す政府官吏、著名な実業家が夫人を伴って押し寄せた。彼らに対する教会指導者の礼儀正しい対応によって、「宣言」以来改善されていた教会に対する印象がますます高まったのである。

1893年4月6日、奉献式が始まった。ウッドラフ大管長はこの日の出来事がかつて夢で見た預言の成就であることを実感していた。大管長は何年も前に夢の中で受けた訪れについて聖徒に話した。ブリガム・ヤングが神殿の鍵を渡し、主に奉献するようにと言ったのである。ウッドラフ大管長は最初の説教において、この日を境にサタンの力は打ち破られ、聖徒を覆っていたサタンの力は弱まり、福音のメッセー

和解の時代

ジに対する人々の関心が高まるであろうと預言した。¹³

奉献式の日程に合わせて神殿を完成させるために職人たちは昼夜を分かたず働いた。奉献式のセッションは、出席を望むすべてのふさわしい教会員が出席できるように、1日に2回行うことが決められていた。推薦状確認係としてすべてのセッションに出席したアンドリュー・ジェンソンは奉献式の初日の模様を次のように記している。「風の王子はここで行われていることに不快感を表すかのように、雹とみぞれ混じりのすさまじい嵐を起こしました。建物の中で栄光あふれる儀式が行われている間、外界ではユタの最長老にも記憶がないほどの嵐が咆哮を上げて暴れまわっていました。市の内外で幾つかの家屋が倒壊し、盆地の全域で大きな害を被ったのです。」¹⁴ 嵐が吹き荒れる天候ではあったが、奉献式の最初のセッションとその後22日間にわたって行われたセッションには愛と一致の精神がみなぎっていた。こうして合計7万5,000人以上の人々が出席した。日曜学校の子供たちも特別セッションに招待されている。

預言者は日記にこう記している。「神の御霊と力がわたしたちのうえにとどまった。預言と啓示の霊がわたしたちのうえにあり、人々の心が和らげられ、多くの事柄がわたしたちの前に明らかにされた。」¹⁵ ある人たちは天使を目撃し、またある人たちは過去の大管長やすでに世を去った使徒たちを見た。¹⁶ プロボから訪れたエマ・ベネットは神殿の中で男の子を出産するという異例の出来事も起きた。1週間後にこの子は神殿でジョセフ・F・スミス副管長から祝福を受け、ジョセフ・テンプル（神殿）・ベネットと命名された。¹⁷

奉献式にテーマがあったとしたら、それは一致だった。説教壇に立った人々は主の羊の群れとして一つとなることの大切さを繰り返し述べた。教会への激しい攻撃、モルモンの敵対者による法律の制定、特定の政党を熱狂的に支持する人々によって引き起こされた紛争などが渦巻く数十年を忍耐し生き抜いてきた聖徒たちは、平和と一致の時代がやがて来るであろうという期待に胸をふくらませた。聖徒たちは指導者であるなしにかかわらず全員が懸命に働いた。そして、心のわだかまりや悪感情を一切取り払って奉献式に出席できるよう断食し、祈った。彼らはそうした霊と心の準備を成し遂げた。教会は今や、過去のいかなる時代よりも一致しているという言葉が説教の随所で聞かれた。

ソルトレーク神殿は様々な意味で教会のシンボルとなった。40年間にわたる犠牲と労働、さらには教会が入手できた最高の技術の結晶として、一つの建物が完成したのである。初期の教会指導者は神殿の内壁を美しく飾るために、末日聖徒の芸術家たちを芸術宣教師としてフランスへ派遣し、世界最高の芸術家のもとで勉強させた。聖徒たちは今や自分たちの苦勞と努力が無駄でなかったこと、「主の家の山」が「もろもろの山のかしらとして」立てられたことを確信した。

ウッドラフ大管長は、死者の救いにかかわる業を推進するという自らの望みの実現に向けて残りの生涯のほとんどをささげた。「幻を見る人」であったウッドラフ大管長は、この業について幾度となく夢を見ている。ウッドラフ大管長は、セントジョージ神殿で1877年にバプテスマと確認を受けたベンジャミン・フランクリンの訪れを受けている。1894年3月のことであった。この合衆国の著名な愛国の志士はウツ

時満ちる時代の教会歴史

ドラフ大管長に対して、神殿の他の儀式も施してくれるように頼んだ。大管長は直ちに神殿で儀式を施す手配をした。ベンジャミン・フランクリンの出現にウッドラフ大管長は喜びを覚えていた。それは、フランクリンは以前に執行された儀式を通してもたらされた祝福を少なくとも喜んでいることを確認できたからである。¹⁸

ウッドラフ大管長はまた、教会で長年にわたって実施されてきた「養子縁組」の儀式についても深く考え、祈っていた。来世で義人の家族に加えられたいという願望から、自分と家族をジョセフ・スミスやブリガム・ヤングといった教会の著名な指導者と結び固めるという習わしがあり、多くの教会員がこれを実施していた。1894年4月の総大会においてウッドラフ大管長はこの件に関して啓示を受けたことを発表した。この啓示はジョセフ・スミスが教えた原則と一致していることを慎重に言葉を選びながら指摘した。まず、ジョージ・Q・キャノン副管長に教義と聖約第128章9 - 21節を読んでもらった。ここで預言者ジョセフ・スミスは、人類家族の世代間には固いつながりが必要であると記している。

ウッドラフ大管長は、聖徒に対する主の御心を明らかにした。すなわち、聖徒は「今後、できるかぎりいにしえにさかのぼって先祖を探求し、先祖との結び固めを受け」、神殿の儀式を通して世代をつなぎ合わせなければならない。そして、もし現世で福音を聞いていれば受け入れたであろう人は日の栄えの王国に行くというジョセフ・スミスの教えを再度確認した後、このように付け加えている。「あなたがたの先祖もこのような人々であったと思います。福音を受け入れない人がたとえいるとしても、その数は非常に少ないでしょう。」¹⁹

この新しい啓示は衝撃を与えた。それまで聖徒は系図探求をほとんど行っていなかったため、結び固めの儀式はあまり執行されていなかった。預言者の強い勧めによって聖徒は系図をさかのぼって先祖を探す努力を始めるようになった。同じ年に教会はユタ系図協会を創設した。こうして、教会において最も永続性があり、同時に大きな成果がもたらされることを約束された事業が開始されたのである。

新しい方向

迫害が猛威を振るった時代にもそれに続く和解の時代にも、教会の前進は阻まれることがなかった。この間、伝道地域は広がり、定住地は拡大し、多くの新しいステークとワードが誕生し、補助組織プログラムが強化改善され、幾つかの教義が明確になり、教育に対する関心が高まり、大切な出来事を記念する祝典が幾つか実施された。

福音の普及に情熱を抱き続けてきたウッドラフ大管長は、合衆国を含む世界の国々に11の新しい伝道部を開設した。1890年代に召された宣教師の数は、前の10年間と比較して3倍近くになった。新しい動きの中心は南太平洋だった。1888年にサモア伝道部が正式に設立され、1891年にはトンガに宣教師が入った。同じころニュージーランドに向かった宣教師はマオリ族の間で成功を収めていた。1898年にはニュージーランド伝道部がオーストラリア伝道部から独立している。こうして南太平洋諸島からの移民が続々とシオンに入ってきた。ソルトレーク神殿の近くに住むことを希望してユタに移住したハワイの教会員のために、1889年ユタ西部のスカルパレ

和解の時代

ーにイオセパ（ハワイ語でジョセフ）入植地が開かれている。

すでに伝道事業が始まっていたヨーロッパの各伝道部でも宣教師は引き続き活動していた。移民する人もいたが、1887年に永続的移住基金が解体されたことが理由でその数は少なくなっていた。ユタへの移民が減少したもう一つの理由には、モルモン入植地における経済的発展の余地が少なくなってきたということもある。いずれにしても、王国が再び動揺することのないように地域内に末日聖徒を集めるという所期の目的は達成されていた。移民する人たちの数は減少したとはいえ、ワイオミング西部、アリゾナ、ニューメキシコ、コロラド、カナダのアルバータに新たな入植地が開かれた。

補助組織は教会の発展に合わせて、プログラムを絶えず評価し、改善していた。1889年にソルトレーク・シティーにおいて扶助協会と初等協会役員のための年次大会が開催された。こうした大会を開くことによって、中央管理会会員は自ら出向いて行って直接指導する必要性が減少し、肉体的負担が大幅に軽減されることになった。ステーキの代表者は大会で中央の指導者から直接、指示を受け、地元へ持ち帰るのである。デゼレト日曜学校連盟は単独で年次大会を開いていたが、1893年からは各ステーキで日曜学校大会を開催することになった。日曜学校の指導者はまた、プロボのブリガム・ヤング・アカデミーとソルトレーク・シティーのLDSカレッジにおいて教師養成クラスを実施している。

都市の形成と発展によって農業以外の職業に従事する末日聖徒の人数が増えてきたため、これまで長年にわたり毎月の第1木曜日に行ってきた断食証会について考え直す必要が出てきた。大管長会は1896年、すでに英国の聖徒の間で実施されていた方式に倣い、断食日を毎月の第1日曜日とすることを指示した。

教会指導者はまた、長年にわたって行われてきた「再バプテスマ」の習慣を廃止した。それまで聖徒たちは、結婚をするとか、共同制度に入るとか、時には健康回復のため、自分の生涯にとって重要な出来事があると再度バプテスマを受けていた。そしてこれらの再バプテスマは会員記録に記入されていた。心からの悔い改めをする代わりに再バプテスマを受けるという教会員が出現するに及んで、大管長会は事態に目を向け始めた。1893年に、ソルトレーク神殿の奉献式に出席を希望する聖徒に対して再バプテスマを要求してはならないとする指示がステーキ会長に与えられたことはあったが、1897年に至って再バプテスマは完全に廃止された。ジョージ・Q・キャノン副管長は次のように説明している。「バプテスマを何度も受けるのではなく、罪を悔い改めることが救いをもたらすのです。」²⁰

教会はこの期間に公立学校に対する影響力を失っていたため、各ワードの集会所で放課後に宗教クラスを教えるプログラムを設けた。こうして、政教分離を規定する法律に違反せずに宗教教育を実施することができるようになった。1888年ウッドラフ大管長は、教会内の全教育事業を監督するために教会教育管理部の設置を指示した。1888年から1891年までの間に、ユタ、アイダホ、アリゾナ、カナダ、メキシコの大きな定住地で30以上のアカデミーが発足した。これらのアカデミーでは、伝統工芸、職業技術ならびに宗教教育を中心にした中等教育が実施されていた。最大のアカデミーがブリガム・ヤング・アカデミーで、後のブリガム・ヤング大学である。

時満ちる時代の教会歴史

1897年には二つの重要な記念祝典が行われた。一つは教会員が心から尊敬する預言者、ウィルフォード・ウッドラフ大管長の90回目の誕生日であった。誕生日の前日に当たる1897年2月28日日曜日、美しく装飾を施されたタバナクルに1万人を超える日曜学校の子供たちが通路にあふれるほど詰めかけて大管長をたたえた。ウッドラフ大管長はいたく感激して、彼が10歳のときに日曜学校に通い、『新約聖書』から使徒や預言者について学んだときのことを子供たちに話している。彼は、『新約聖書』の時代の人々のように、いつの日か預言者や使徒に会えるようにと祈った。そして「預言者、族長、そしてイスラエルの民の息子、娘」である子供たちに対して、少年時代の幼い祈りでさえも何度もかなえられたことを証した。²¹ 翌日、大管長の実際の誕生日には大人たちも集まって、預言者をたたえる祝典が再び行われた。教会を挙げて一人の指導者にこれほどの愛を表すのはまれなことであった。

1897年7月24日から始まる1週間は、聖徒がソルトレーク盆地に到着してから50年目に当たることを記念して、特別な「50年祭」を祝うことになった。この祝典は新しく州に昇格したユタを世界に向けて披露する初の機会となるため、随所に熱意と愛国心があふれる催しが行われた。祝典の最初のイベントは推定5万人を超す群衆の見守る中で行われた、ブリガム・ヤングの記念碑の除幕式であった。この記念碑はサイラス・E・ダリン制作によるブロンズの彫像で、重量は20トンを超える。この彫像は今なおソルトレーク・シティーの中心部に置かれている。

最初の開拓者団の生き残りである24人が、タバナクルにおいて表彰を受け、金のメダルを贈られた。この中にはウィルフォード・ウッドラフ大管長も交じっていた。豪華な飾り付けを施された馬車と、興奮して馬車の後を追う数千の子供たちによるパレード行進が街をにぎわした。ユタの農業、鉱業、産業の特産物も併せて展示された。

ブリガム・ヤングと初期の開拓者をたたえる開拓者記念碑の除幕式は、開拓者団がソルトレーク盆地に到着した1847年7月24日から数えて50周年を記念する祝典において行われた。祝典は1897年7月20日から4日間にわたって行われた。記念碑はユタ生まれのサイラス・E・ダリンの作である。奉獻されるまではテンブルスクウェアで展示された。現在はソルトレーク・シティーのメインストリートとサウステンブルストリートが交差する地点に置かれている。



ユタ州歴史協会の厚意により掲載

和解の時代



アイザック・トランボ邸。サンフランシスコのオクタビアストリートとサッターストリートの交差する地点にある。ウッドラフ大管長は1898年9月2日にここで死亡した。

1898年の夏、ウッドラフ大管長は以前からの恒例で、キャノン副管長その他の人々を伴って、ユタの酷熱を逃れ、カリフォルニアで休暇を過ごした。しかしながら、預言者の健康状態は急激に悪化し、9月2日カリフォルニア州サンフランシスコのアイザック・トランボ家で睡眠中に死亡した。数日後にソルトレーク・シティで行われた葬儀の席で、ジョージ・Q・キャノン副管長は次のように述べている。「ウッドラフ大管長は神の人でした。彼は戦いを終えて、兄弟たちと交わるためまた立派に務めを果たした報いを受けるために、次の世に召されました。彼は天上人でした。彼とともにいると天国にいるようでした。わたしたちは大管長の旅立ちによって、偉大で善良な人、忍耐と誠をもって終わりまで堪え忍ぶ者に約束されたすべての祝福をことごとく受けるにふさわしい人との交わりを奪われたのです。」²²

注

1. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1887年7月25日, 末日聖徒歴史記録部, ソルトレーク・シティ。マサイアス・F・カウリー, *Wilford Woodruff: History of His Life and Labors* 『ウィルフォード・ウッドラフの生涯と努力の歴史』(Salt Lake City: Bookcraft, 1964), 560も参照
2. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1888年5月15日
3. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1888年5月17日
4. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1889年12月31日
5. エドワード・リオ・ライマン, *Political Deliverance: The Mormons Quest for Utah Statehood* 『政治的解放: モルモンによるユタ州昇格の追求』(Urbana, Ill.: University of Illinois Press, 1986), 130 - 131参照
6. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1890年9月25日
7. ソルトレーク神殿歴史記録, 1893 - 1922年, 末日聖徒歴史記録部, ソルトレーク・シティ, 71で引用
8. *Millennial Star* 『ミレニアルスター』1890年11月17日付, 737 - 738参照
9. 『ミレニアルスター』1890年11月24日付, 739
10. 『ミレニアルスター』1890年11月24日付, 741
11. “To the Saints” *The Deseret Weekly* 「聖徒へ」『デゼレトウィークリー』1896年4月11日付, 533
12. ブリガム・ヤング, *Journal of Discourses* 『説教集』1: 133参照
13. カウリー 『ウィルフォード・ウッドラフ』582 - 583参照
14. *Autobiography of Andrew Jensen* 『アンドリュー・ジェンソンの自叙伝』(Salt Lake City: Deseret News Press, 1938), 205
15. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1893年4月6日
16. ジョン・ニコルソン “Temple Manifestations” *The Contributor* 「神殿における現れ」『コントリビューター』1894年12月号, 116 - 118参照
17. ジェームズ・H・アンダーソン “The Salt Lake Temple” 「ソルトレーク神殿」『コントリビューター』1893年4月号, 301参照
18. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1894年3月19日; カウリー 『ウィルフォード・ウッドラフ』586 - 587参照
19. “The Law of Adoption” 「養子縁組に関する律法」『デゼレトウィークリー』1894年4月21日付, 541 - 543)
20. Conference Report 『大会報告』1897年10月, 68で引用
21. カウリー 『ウィルフォード・ウッドラフ』602。ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1897年2月28日も参照
22. カウリー 『ウィルフォード・ウッドラフ』633で引用